

令和4年5月26日発行

栗原普及センターだより

「くりはら」  
151号

## パプリカの 産学官連携による スマート農業への取組

宮城県のパプリカの出荷量は、1,420t（平成30年産）と全国1位。中でも栗原地域は、大規模施設によるパプリカの養液栽培を行っており、県内最大の産地となっています。

県では、パプリカ生産法人をはじめ、ロボット製造やシステム開発などを行う企業・大学・研究機関とともに、スマート農業技術を活用したパプリカの品質と労働生産性の向上や新たな流通体制を構築するプロジェクトに取り組んでいます。

栗原市高清水の（株）ベジ・ドリーム栗原では、カメラ付きのロボットが走行して動画を撮影、人工知能（AI）で着色程度別に果実の数を計測し、1～2週間後の収量を予測する実証試験が行われています。また、ベジ・ドリーム栗原と実証試験に参画している生産法人が共通パッケージを作ることで、宮城県産パプリカのブランド力強化を図っています。

生産量やニーズの変化に対応できる生産体制の確立に向け、大規模生産者と産学官が一丸となって、パプリカのスマート商流の実現を目指します。



宮城県産パプリカ共通パッケージ

## 所長挨拶

人口減少や高齢化に加え、2年以上続く新型コロナウイルス感染症の影響により米の消費が一段と減少して在庫が膨らみ、令和3年産米の概算金は大幅に落ち込みました。

令和4年産米についても1,000ha以上の作付転換が必要とされており、大豆や飼料用米、園芸作物等食用米以外の品目への転換が喫緊の課題となっています。

このような課題に対応するため、栗原農業改良普及センターでは、集落営農組織の大豆の単収・品質向上や農地整備事業実施地区における土地利用型野菜の導入定着などのプロジェクト活動の他、農業法人の経営改善支援等の普及活動に取り組んでまいりますので、よろしくお願ひします。

栗原農業改良普及センター 所長 及川克徳



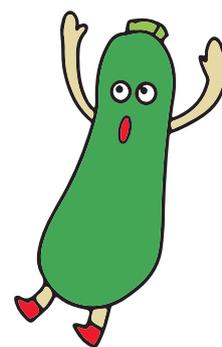
## プロジェクト活動 R4課題紹介

### 課題 No. 1 人と環境にやさしいズッキーニ栽培と収益力の向上

栗原地域では、平成27年にJA、市、県で「ズッキーニ生産拡大プロジェクト」を立ち上げ、ズッキーニの生産拡大と認知度向上を進めてきました。今では、年間150tほどのズッキーニが出荷され、仙台市場の9割以上を栗原産ズッキーニが占めています。

今や栗原の特産野菜となったズッキーニですが、管理作業に手がかかることや、高齢化により作付面積や生産者数は近年ほぼ横ばいとなっています。このため、生分解

性マルチへの転換や立体栽培を取り入れ、環境にやさしく、かつ軽労化を図るための技術検証をし、産地としてさらに成長するための支援を行います。



栗っこズッキーニキャラクター  
「クリッキーニヨ」

### 課題 No. 2 栗原市金成津久毛地区における高収益作物導入・定着

加工用ばれいしょは、みやぎ園芸特産振興戦略プランで推進する品目と位置づけられており、販売ルートが確立されているなどのメリットがある園芸品目です。

栗原市金成津久毛地区では、数年前から水田転作の一環として、加工用ばれいしょ栽培に取り組んでいますが、ほ場の排水不良や除草対策などの課題があり、残念ながら目標とする収量に至っていない状況にあります。また、同地区に加工用ばれいしょが定着し、取組面積が拡大していくためには収量確保のほか、農業機械の有効利用など、担い手を中心とした連携体制の整備が必要

と考えています。

そのため普及センターでは、収量向上を目指した生育調査や他地域との技術交流などを通して支援するとともに、生産を担う生産者間の連携を図っていきます。



ばれいしょ定植

課題 No. 3 集落の維持・発展を目指す法人経営体へのステップアップ

栗原市若柳地区にある有賀営農組合は、この1年間、法人化のメリット、デメリットなどの勉強会や地域の課題整理を通じ、有賀地区にあった法人の形を模索してきました。検討を重ねていく中で、転作のブロックローテーションや集落全員参加の集落環境整備など、住民の結束力の堅さとこれまで積み上げてきた「調和」を活かし、“ぐるみ型”の農事組合法人で進めていくこととなりました。

本年度は、発起人会の立ち上げを皮切りに、組織運営関連の規約や各種契約関連の

整備など、法人の運営ルールづくりと、資金管理や収支計画などの経営計画づくりを行い、年度内の法人設立を目指していきます。



法人化検討会の様子

課題 No. 4 集落営農における大豆生産及び法人経営の安定化

栗原市若柳地区の農事組合法人ふくおかを対象とし、令和4年度から2年間、大豆生産と法人経営の安定化を支援します。農事組合法人ふくおかは令和3年12月に福岡営農組合を前身とし、構成員34人で法人化しました。

大豆は需要のあるミヤギシロメを作付けしていますが、蔓化・倒伏による作業性の低下、難防除雑草の発生や湿害などの課題を抱えています。摘芯技術の導入や吊り下げノズルを使った雑草防除、適期管理作業の実施により、大豆の収量・品質の高位安

定化を目指します。

また、法人は設立後間もないことから、経営が安定化するよう、組織運営と営農計画等策定の支援を行っています。



農事組合法人ふくおか設立総会

農作業安全確認運動展開中！

運動期間：春 令和4年4月1日から6月30日  
：秋 令和4年9月1日から11月30日

令和4年 農作業安全確認運動スローガン

【しめよう！シートベルト】

走行中のトラクター等の転倒・転落事故防止！



- ・路肩からの転落に注意！
- ・いねむり、脇見運転注意！
- ・携帯電話等を持参し、もしもの時に家族等と連絡を取れるように！

作業時以外は左右ブレーキペダルを確実に連結！

農薬危害防止運動実施中！

毎年6月から8月にかけては、農薬の安全かつ適正な使用、使用中の事故防止、環境に配慮した農薬の使用等を推進するため、「農薬危害防止運動」が実施されます。使い慣れている農薬でも、使用する際にはその都度必ずラベルを確認し、希釈倍数等の使用基準や使用上の注意事項を遵守しましょう。

また、農薬による事故原因として最も多いのが、保管管理不良による、誤飲・誤食です。施錠された場所に保管するなど、保管管理の徹底と不要になった農薬や空容器等は廃棄物処理業者に依頼をするなど、適切に処理しましょう。

農業用廃プラスチックは適正に処理しましょう

# 栗原農業改良普及センターの業務概要

(北部地方振興事務所栗原地域事務所農業振興部)

## 地域農業班の 主な担当業務

- ・地域農業振興計画，地域営農システム構築の支援に関すること
- ・多様な担い手の確保や育成に関すること
- ・農業士に関すること
- ・新規就農者及び女性農業者の育成に関すること

TEL 0228-22-9437

## 先進技術班の 主な担当業務

- ・生産技術改善，経営管理高度化の普及指導に関すること
- ・主要農作物の種子生産に関すること
- ・農産物の流通及び利活用に関すること
- ・生産組織の育成に関すること

TEL 0228-22-9404

## 地域調整班の 主な担当業務

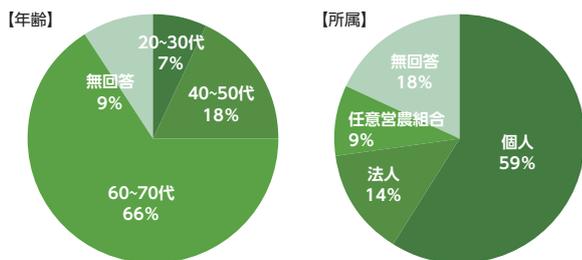
- ・農業振興地域の整備，農地転用に関すること
- ・農業制度資金に関すること
- ・環境保全型農業，土壌汚染対策に関すること
- ・農地中間管理事業，経営所得安定対策に関すること

TEL 0228-22-2268

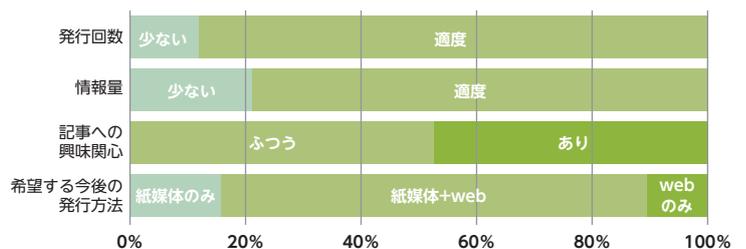
## 第150号で実施したアンケート結果

前回の普及センターだより第150号で、掲載内容や発行回数、配布方法等について、今後の改善に活かしていくため、アンケートを実施しました。栗原管内の認定農業者にアンケートを送付した結果、44件の回答がありました。御協力いただいた皆様、ありがとうございました。

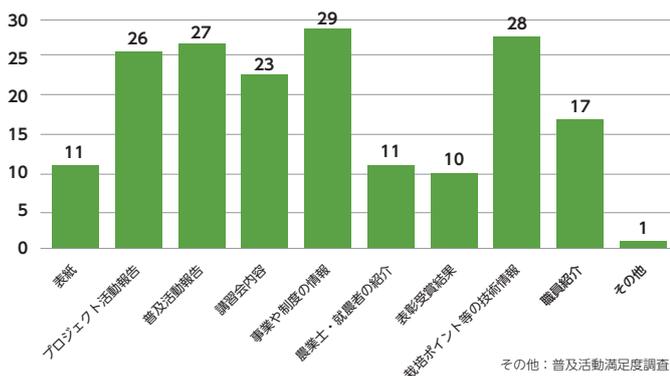
### 1. アンケートの記入者について



### 2. 「普及センターだより」のスタイル等について



### 3. よく読んでる記事について



### ～アンケートを受けて～

いただいた御意見を踏まえ、今後とも、読者の声に基づいたより良い普及センターだより「くりはら」の発行に努めてまいります。

これまで発行してきた普及センターだよりは、下記QRコードからアクセスして御覧いただけます。



普及センターだより くりはら 検索

<https://www.pref.miyagi.jp/site/khnokai/tayori-kurihara.html>

